

環境保全・景観保全 伝統の継承 教育機関との連携

伝統資源を繋ぐ～「保存と活用、知恵と技」

活動の経緯

地域資源発掘をかきあげて設立した「東京ひのはら地域協議会」の取り組みである紫草を受け継いで、保存・活用活動を始めた。栽培技術を含めた商品化へと発展させる目的で、「紫根染体験をしませんか」、「紫草の鉢植えを譲ります」と新聞ニュース紹介されると、年代・地域を超えて問合せが殺到し、染色家や伝統きもの保存の大学研究室などから紫根購入希望があり納品することができた。

活動の概要

地域資源の保存・紫根の活用、染体験を通して人材育成、安定栽培、資源供給・商品化を充実させる。



種まき、高橋園芸にて



檜原小学校「ふるさと檜原学習」

活動の成果、主な実績等

これまでの市民活動の取り組みを引継ぎ、次世代事業として親しみやすい「染め」体験と、在来ムラサキ保存と活用の意義を多くの人々と共有するための栽培企画をし、種植えから紫根採取までの一年間、栽培と保存のノウハウを学び、東京の山間集落が育んできた伝統的な知恵や技を通して、自然資源を大切に育んできた暮らし方を広く発信することが出来た。

種植えから紫根（染料）の収穫までの一年間の栽培企画を、地元小学生と一般とに分け、収穫物の紫根を染料として染体験を行った。絶滅危惧種であるムラサキの育て方の難しさ、収穫した紫根を染料とする扱い方の繊細さ、紫根染の研修を通して、紫根染の難しさの一連の流れを通して、万葉の時代からムラサキを憧れ、大切に愛されてきたムラサキの貴重さを体感することができた。

紫草の花と、紫根染のそれぞれの愛好者と共に、日本在来ムラサキを大切に守り、生活に取り入れられるよう栽培技術を育み、次世代へとつながる仕組みを創ることの楽しさと、今後のプロジェクトの役割が見えてきた。